

第1回訓練から得られた課題 ～ 緊急時対応について ～

平成18年10月30日(月)
食品安全委員会事務局

オブザーバー参加された専門委員のコメント

- 情報収集・共有体制について -

- 委員や関係者の間での情報の共有体制は早い段階から確保しておくことが重要。
- リスク管理機関からの情報入手は待ち受け情報とはいえ、連絡体制を通してさらに早い時点で情報収集すべきではないか。
- 専門家の意見を聞き、収集した情報を評価する必要があるのではないか。
- 委員会独自に、微生物などの専門家を集めて科学的な分析を行うことを検討すべきではないか。

食品安全委員会委員及び事務局職員のコメント

- 情報収集・共有体制について -

- 既存の情報収集体制に加え、より広範な専門家集団からの情報収集体制を整備すべき。
- 収集した情報を分析することを検討する必要がある。

オブザーバー参加された専門委員のコメント

- 情報提供について（国民への対応） -

- 早い段階で、情報があってもなくてもプレスリリースを行うとか、記者懇談会を開くなどのアクションをとることが重要。
- 科学的観点からみれば委員会が対応するほどの緊急事態には至っていないと判断される場合でも、食品安全委員会HPのトピックス欄を活用するなどして情報説明や情報提供が必要。
- アウトブレイク時のリスクコミュニケーションは何処が行うか（担当省庁か委員会か）、その内容の整合性などは何処がチェックするかを整理しておく必要がある。
- 委員会として、毎日、定時的にプレス発表をするなどの情報提供は必ず行うべきである。

食品安全委員会委員及び事務局職員のコメント

- 情報提供について（国民への対応） -

- 早い段階で、新しい科学的な知見があるなしにかかわらず情報提供を行うべきではないか。
- 初動対応の充実が重要。特に情報提供においては、国民の「不安」を如何に解消するかなど、情報を受ける側の立場にたった対応が必要。

オブザーバー参加された専門委員のコメント

- 情報提供について（マスコミへの対応） -

■ メディアへのリスクコミュニケーションでは、かなり混乱が予想される。日頃から勉強会のような形で、食品の安全、食中毒などに関し、情報を提供してはどうか。

食品安全委員会委員及び事務局職員のコメント

- 情報提供について（マスコミへの対応） -

- マスコミと日常的な双方向のコミュニケーションを取れる関係をどのように構築していくか、また、緊急時における一元的、定例的な情報提供の仕組みをどのように構築するか等の課題があると思われた。
- 記者クラブがない中で、どのようにマスコミ対応を行っていくかについても検討しておくべきと感じた。

オブザーバー参加された専門委員のコメント

- 情報提供について（専門委員等への対応） -

- 専門委員への情報提供は速やかに行うべきと考えた。メディア等から専門委員に対して、質問、取材が求められる場面は多いと思われる。専門委員が、これに対してどのように対処するか、今後、決めておくべきである。

食品安全委員会委員及び事務局職員のコメント

- 情報提供について（専門委員等への対応） -

- 専門委員等への連絡体制について、見直しておくべきである。

オブザーバー参加された専門委員のコメント

- 食品安全委員会の開催について -

- 緊急事態と判断されなくても、臨時の委員会を開き、その時点での情報や今後の対応を確認するということも必要ではないか。
- 食品安全委員会を開催し、毎日の結果について報告するとともに、対応策等について発表すべき。

オブザーバー参加された専門委員のコメント

- リスク管理機関との連携について -

- 委員会の主な役割は、リスク評価及び省庁間の連携についての調整機能であると考えられる。そのために、早い段階で関係府省連絡会議を開催するなどの対応をとっても良かったのではないか。

食品安全委員会委員及び事務局職員のコメント

- リスク管理機関との連携について -

- 委員会では、全国食品安全連絡会議等において都道府県、政令市区との連携が進められているところであり、これら連携関係を基盤として情報収集ルートの確保を図ることも重要と思われる。
- 過度なマスコミ報道に対し、関係府省が連携して対応するために対策本部を設置するなどの議論を行っても良かったのではないかと。

オブザーバー参加された専門委員のコメント

- その他 -

- 重大事案発生時において、初期段階では被害の規模等、全体像がつかみにくくその後の展開も予測できない。食品安全委員会が対象とする「緊急事態」に該当するかどうかを実際に判断できるのは多くの場合、かなり時間が経過してからになると思われる。「緊急事態の見極めは非常に難しい」ということを前提に、緊急事態と判断される以前の段階でいかに動くかという部分が非常に重要と考えられる。
- 緊急時をどう見るか、という解釈が各人で異なっているのではないか。

食品安全委員会委員及び事務局職員のコメント

- その他 -

- 緊急時が起こった場合、委員会としての対応はリスク管理機関の対応に応じて変わってくるとすれば、想定される事案毎に、リスク管理機関の対応と食品安全委員会の対応を予め検討し、整理しておく必要があるのではないか。
- リスク管理機関との連携において、どのような会議を設置することができるのか、また、設置した会議の中でどのような対応ができるのか、事前にシミュレーションしておく必要があるのではないか。
- 日常からミニ訓練を行うとともに、緊急事態をイメージしつつ仕事をする習慣をつけるような工夫をするなど、危機管理能力を高めていく必要があるのではないか。

訓練から得られた課題（案）

～ 緊急時対応の強化点～

情報収集・共有体制について

- 情報収集体制の確保
- 関係者間の情報共有体制の確保
- 収集した情報の分析・評価体制の確保

情報提供について

- 国民、専門委員等への迅速な情報提供体制の確保
- マスメディアとのコミュニケーション手段の確保

食品安全委員会の開催について

- リスク管理機関からの報告の要請

リスク管理機関との連携について

- リスク管理機関との連携体制の確保

緊急時対応マニュアルの実効性を高める

机上シミュレーション訓練の目標

- 予め設定した緊急事態が「どう進展していきそうか」「関係各所はいつどのような対応を行うか」について話し合うことにより、
 - 1．食品安全委員会が対応すべき緊急事態についての展開イメージを共有する
 - 2．実動訓練（シナリオ非提示型）に向けた課題を抽出する

1 . 食品安全委員会が対応すべき緊急事態についての展開のイメージを共有する

提示された「緊急事態」での「緊急時対応」については、展開イメージを共有することができた。
ただし、以下の問題点が確認された。

- プレーヤーのこれまでの経験等により、「緊急時対応」の判断に違いが生じる。

机上シミュレーション訓練を繰り返し行うことにより、多くの事例の展開イメージの共有を図る。

危機管理に必要な考え方、技術を再確認する。

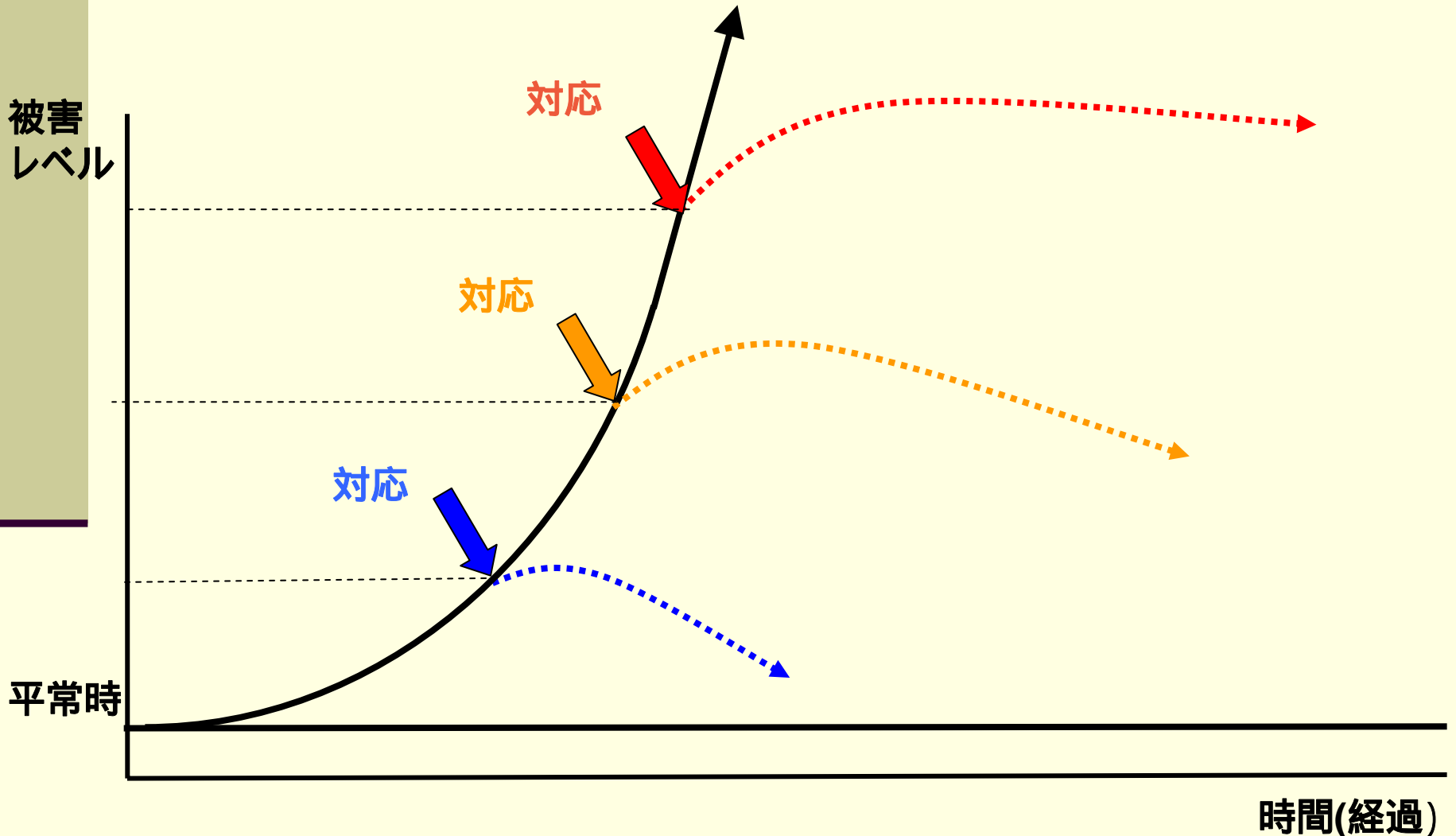
- ・ 「平時ではない状態」 「緊急時対応開始」
- ・ 「緊急時対応」 = 「緊急事態のレベルをいかに低減するか」

危機管理に必要な考え方・技術の要点

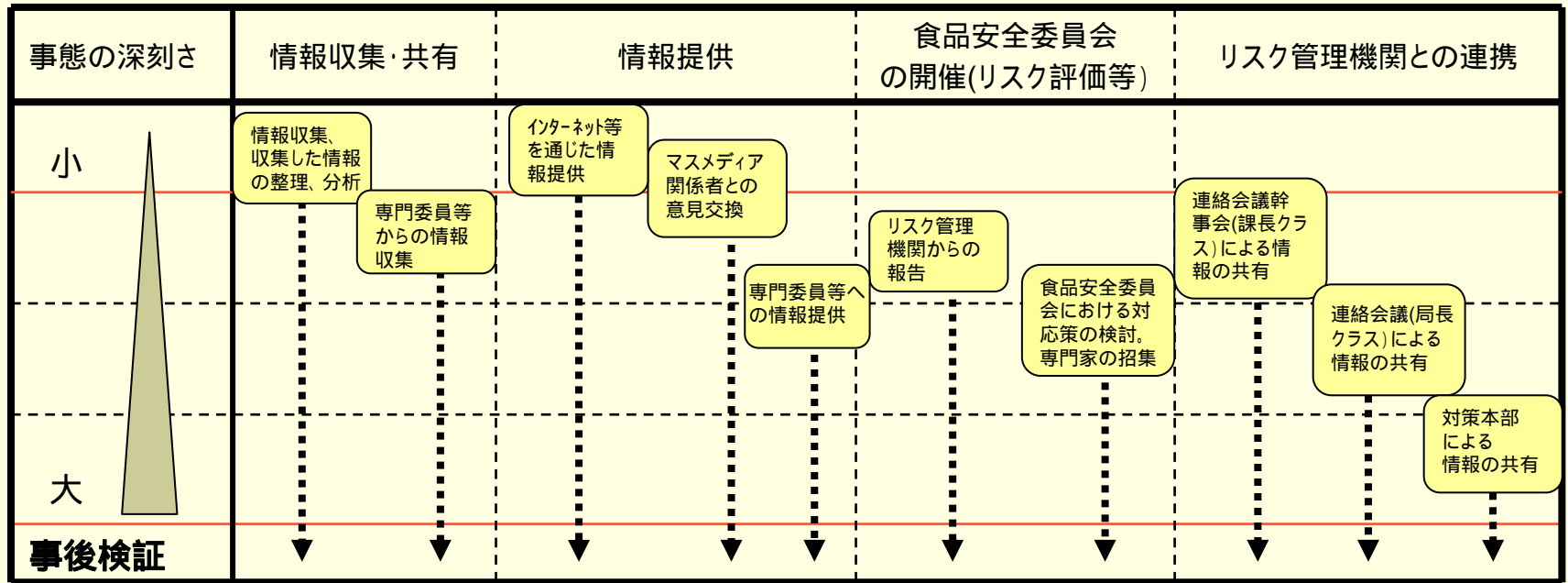
～ 食品安全委員会の緊急時対応～

- 平常時における事態の想定、想像力の涵養
- Proactive の考え方 = 先を見越した行動をとる、率先してやる
- 情報収集・分析・統合能力
- 情報の共有と認識の共有
- 明確な意思決定過程、簡素な指揮命令系統
- 不確実状況下での意思決定の考え方、方法の確立
- 事態に応じた体制確立と連携（役割分担の基本を決めておいて、危機時には臨機の役割分担を行う）
- 対応能力分析（平常時、緊急時）
- プレス対応、住民広報 = クライシス・コミュニケーション

食品安全委員会における緊急時対応の効果



食品安全委員会における 緊急時対応の展開イメージ



【緊急時対応の判断要素】

判断要素	健康被害の規模	社会的反響の大きさ	リスク管理機関の対応
要素内容	被害者数 被害程度 拡大状況 等	報道量 (テレビ、新聞等) 報道内容 食の安全ダイヤルへの反響 等	リスク管理措置 等

2．実動訓練（シナリオ非提示型）に向けた課題を抽出する

■ 抽出された課題(案)

- 利用可能、設置可能な会議の種類と対応範囲の確認
(緊急対策本部を含む)
- 緊急時対応における事務局の体制の確認
- 情報提供体制と手順の確認
 - 国民へ
 - マスコミへ
 - 専門委員等へ